

(1) 情報科学教育部会

教育部会名	情報科学教育部会
部会長名／作成者名	部会長・熊本悦子／作成者・熊本悦子
概 要	
1. 組織・運営について 令和元（2019）年度の情報科学教育部会は、国際文化学研究科 5 名、海事科学研究科 2 名、保健学研究科 1 名、工学研究科 1 名、システム情報学研究科 2 名、都市安全研究センター1 名、情報基盤センター6 名、そして「情報基礎」の副担当として各部局からの教員 18 名から構成され、部会長 1 名（情報基盤センター）、幹事 3 名（国際文化学研究科 2 名、情報基盤センター1 名）が世話役となり運営されている。	
2. 実施状況について 全学必修科目の「情報基礎」（23 クォーター）、共通専門基礎科目である「情報科学 1」および「情報科学 2」（計 14 クォーター）、基礎教養科目である「情報学 A」および「情報学 B」（計 8 クォーター）という教育目的の異なる 3 種類の授業科目を開講した。「情報基礎」は本学の新生全員（受講対象者数 2,604 名）および再履修者に対して演習室で一人一台の教育用端末を用いて行う実習付きの授業であり、情報科学教育部会に属する教員および非常勤講師のべ 35 名の主担当教員と、各部局からの副担当教員のべ 21 名、および TA のべ 29 名により行われた。「情報科学 1」および「情報科学 2」は国際文化学研究科、保健学研究科および非常勤講師により、「情報学 A」および「情報学 B」は工学研究科、システム情報学研究科および都市安全研究センターの教員により行われた。 (1) 情報基礎 「情報基礎」は、本学で勉学を行う上で理解しておくべき最低限必要な情報リテラシーを身に付けるための 1 クォーター1 単位の必修科目であり、2004 年度より実施しているものである。すべてのクラスで授業内容・授業計画を統一し、全学で運用されている e-learning システムである学修支援システム BEEF（以下 BEEF）を用いた授業を行っている。 今年度からの PC 必携化に対応するため、情報基礎の第 1 回の授業において、自分のパソコンを持参させて、アカウント通知書の配布に続き、全額無線 LAN への接続と、うりぼーネットおよび BEEF へのアクセスの実習を行った。2009 年度に実施した外部評価において、外部評価委員から「教授内容を毎年変化させる」こと「これまでの授業運営の経験が十分に生かされている」ことなどについて高く評価を受けており、本年度も部会幹事を中心としてとして授業内容の企画・整備を行った。この目的では、各回の授業ごとに実施している部会独自のアンケートを活用している。アンケートは授業時間中に BEEF 上で回答させていることもあり、回答率は非常に高く、授業改善に役立っている。一部のクラスでは次の授業でアンケートについてコメントすることで受講生とのインタラクションにも役立っている。その他、附属図書館の利用について学ぶ「情報の活用」の回については、附属図書館情報リテラシー係が講師を務めている。また、授業中に行うオンライン小テストの回答状況や正答率、情報技術に関する現状や社会的な要求を考慮して、出題する問題の改善を行った。また、学務部教育評価グループより依頼を受け、うりぼーネットで行なっている「入学・進学時アンケート」を授業中に回答させる、または回答するように指導することにより、このアンケートの回答率向上に寄与した。 (2) 情報科学 1/2 「情報科学 1」および「情報科学 2」については、共通専門基礎科目という位置づけで、学部・学科単位のクラス編成となっており、学部等の専門基礎としてふさわしい科目となるように、各学部の特性に応じて教授内容を工夫している。例えば、医学部保健学科対象のクラスでは、養護教員二種免許取得の際に必須となるため、一般的な情報技術だけではなく医療情報システム等を内容に盛り込んでいる。	

また、ほとんどの授業で、教材を BEEF に置くことで、授業時間外でも資料をダウンロードして自学自習に生かせるように工夫している。さらに、一部の授業では授業中の小テストを BEEF で行い、学生にはスマートフォンを利用して回答させている。これにより、学生の理解度を素早く確認するとともに、理解度の低い内容については、次の授業時や、場合によっては当該の授業時間内に補足するなど素早くフィードバックすることで、学生の理解度を深める工夫を行っている。

(3) 情報学 A/B

「情報学 A」および「情報学 B」では、コンピュータやネットワークなど情報社会を支える技術についてのわかりやすい紹介だけでなく、教員の専門分野に基づいた先端技術の紹介も行い、高度情報社会で必要な幅広い基礎知識を習得できる内容としている。

ほとんどの授業で、教材を BEEF に置くことで、授業時間外でも資料をダウンロードして自学自習に生かせるようにしている。さらに、一部の授業では授業中に小レポートを行うことで、講義の理解度を深める工夫も行っている。

3. 課題について

実習をともなう授業は、K501、K502 のコンピュータ教室を利用している。これらの教室では、教育用端末が整備されているが、端末間のスペースが狭く、実習中に教員や TA がサポートのため巡回するには手狭であるという問題がある。また、コンピュータの発熱により、教室は早い時期から冷房を入れないと教室内がかなり暑くなる。室内は、場所により温度の高低差があるため、サーキュレータなどによる温度調整の工夫が必要と思われる。室内の温度管理については、個人により感じ方が違うがある程度気をつけた方が良いと思われた。

4. 総合所見

全体として課題は設備面に偏っており、授業については概ね順調に行われていると思われる。授業アンケートの総合評価の値は 3 点台後半から 4 点台後半となっており、全体としては高い評価を得ていると思われる。

A 組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか

情報科学教育部会は学内から 18 名および「情報基礎」の副担当として各部局より選出された 18 名から構成されている。部会長 1 名，幹事 3 名を置いており，その実施体制・運営体制は適切に整備され，機能している。

根拠資料

教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか

「情報基礎」では各単元に独自のアンケートを行い，学生からの意見を収集している。また，担当教職員，TA を含むクラス担当者のメーリングリストを準備し，意見収集が可能な体制を整えている。

根拠資料

授業振り返りアンケート，BEEF 上の資料（アンケート）

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか

「情報基礎」の授業中の教室の環境改善に対応は授業担当者によりこまめに対応している。パソコン必携化により，手元に資料をダウンロードできるため，前方スクリーンに提示された資料が見辛いなどの問題点は改善された。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）、情報基礎スタッフページ

③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか

「情報基礎」のテキストおよび授業手順書を事前に BEEF に掲載し，授業担当者から授業前後に改善点等の意見を徴収している。

根拠資料

情報基礎スタッフページ上の資料（授業手順書），BEEF 上の資料

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか

「情報基礎」には，50 人に 1 名の割合で TA または SA を配置している。授業中の実習等のサポートや，クラスメーリングリストにより履修生からの質問の対応を行っている。TA/SA を含む授業担当者のための授業手順書を用意し，業務内容を明確にしている。

根拠資料

情報基礎スタッフページ上の資料（授業手順書）

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものであるか

「情報基礎」、「情報科学 1/2」、「情報学 A/B」それぞれについて、情報科目の学習科目に対応した適切な授業目標となっている。

根拠資料

シラバス、BEEF 上の資料（テキスト、プレゼン資料、配布資料）

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか

共通専門基礎科目である情報科学 1/2 は学部・学科単位のクラス編成であり、学部等の専門基礎としてふさわしい科目となるように、各学部の特性に応じて教授内容を工夫している。「情報基礎」では、全てのクラスで同じ授業目標を設定している。

根拠資料

シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか

「情報基礎」、「情報科学 1/2」、「情報学 A/B」それぞれについて、適切な授業内容を設定し、到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料

BEEF 上の資料、シラバス、教員用自己点検評価シート（様式 2）

- ④単位の実質化への配慮がなされているか

「情報基礎」では、BEEF 上の資料で事前・事後学習が可能である。また、授業の理解を深めるための事前学習、毎回の授業で、課題または小テストを課している。「情報科学 1/2」「情報学 A/B」においては、資料を授業中に配布するのみならず、BEEF 上でも配布し、授業時間外に閲覧し学修できるようにしている。

根拠資料

BEEF 上の資料、シラバス、教員用自己点検評価シート（様式 2）

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか

「情報基礎」では 1 人 1 台のコンピュータを割り当て、各クラスの履修者数に応じて複数の教員および TA/SA で授業を担当している。授業を実施するに当たっては共通の手順書を準備し、すべてのクラスで同じ質の授業を実施できるようにしている。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」においては、教員持ち込みのノート PC を用いてスライドやビデオを活用した講義を行った。これらの資料は BEEF に掲載し、授業中や授業時間外に参照することで自学自習を行えるようにしている。

根拠資料

各クラスの受講者数一覧表、担当者一覧表および座席、BEEF 上の資料（テキスト、授業手順書）

情報科学 1/2・情報学 A/B：シラバス、BEEF 上の資料（プレゼン資料、配付資料）、教員用自己点検・評価シート（様式 2）

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか

全ての科目について、必須項目が全て記載されている。

根拠資料

シラバス、教員用自己点検評価シート（様式 2）

- ⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか

「情報基礎」は、全学必修科目であり、授業開始時に資料を配布してガイダンスを行っている。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」においては初回講義の際に資料を配布するなどしてガイダンスを行っている。それらの配付資料は BEEF 上に掲載し、随時閲覧できるようにしている。

根拠資料

シラバス、配布資料、BEEF 上の資料

- ⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか

「情報基礎」に関しては、クラスごとにメーリングリストを用意し、学生から電子メールで担当教員およびティーチングアシスタントに対して随時、質問が受け付けられるようになっている。また、毎回授業アンケートを実施し、自由記述欄を設けている。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」についてもオフィスアワーおよびメールアドレスを初回の授業時に案内している。一部の授業では、毎回のレポートなどに自由記述欄を設け、質問などを受け付けられるようにしている。また、復習クイズを実施し、前回の授業内容が理解できているかを確認するなどの工夫を行っている。

根拠資料

シラバス、BEEF 上の資料、自己点検・評価シート（様式 2）

- ⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか

「情報基礎」については成績評価基準を全クラスで統一しこれにしたがって評価を行っている。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」については、シラバスに記載した内容に基づいて成績評価を行っている。

根拠資料

BEEF の評定表、成績集計システムによる自動採点結果、答案、成績分布、教員用自己点検・評価シート（様式 2）

- ⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか

「情報基礎」で独自に実施しているアンケートによると、内容に対して授業時間が短いことに不満が多く、学生の授業評価に影響を与えていると考えられるが、授業評価（総合判断）は 4 以上であり、回数以外に対しては高い評価であると考えられる。「情報科学 1/2」および「情報学 A/B」の評価については授業評価（総合判断）が 3 点台から 4 点台後半であり、いずれも教育の成果や効果が上がっているものと思われる。

根拠資料

学生授業評価アンケート、教員用自己点検・評価シート（様式 2）